

もっといきいき健康に！地域がつながる医療と介護を目指して

帰巖会

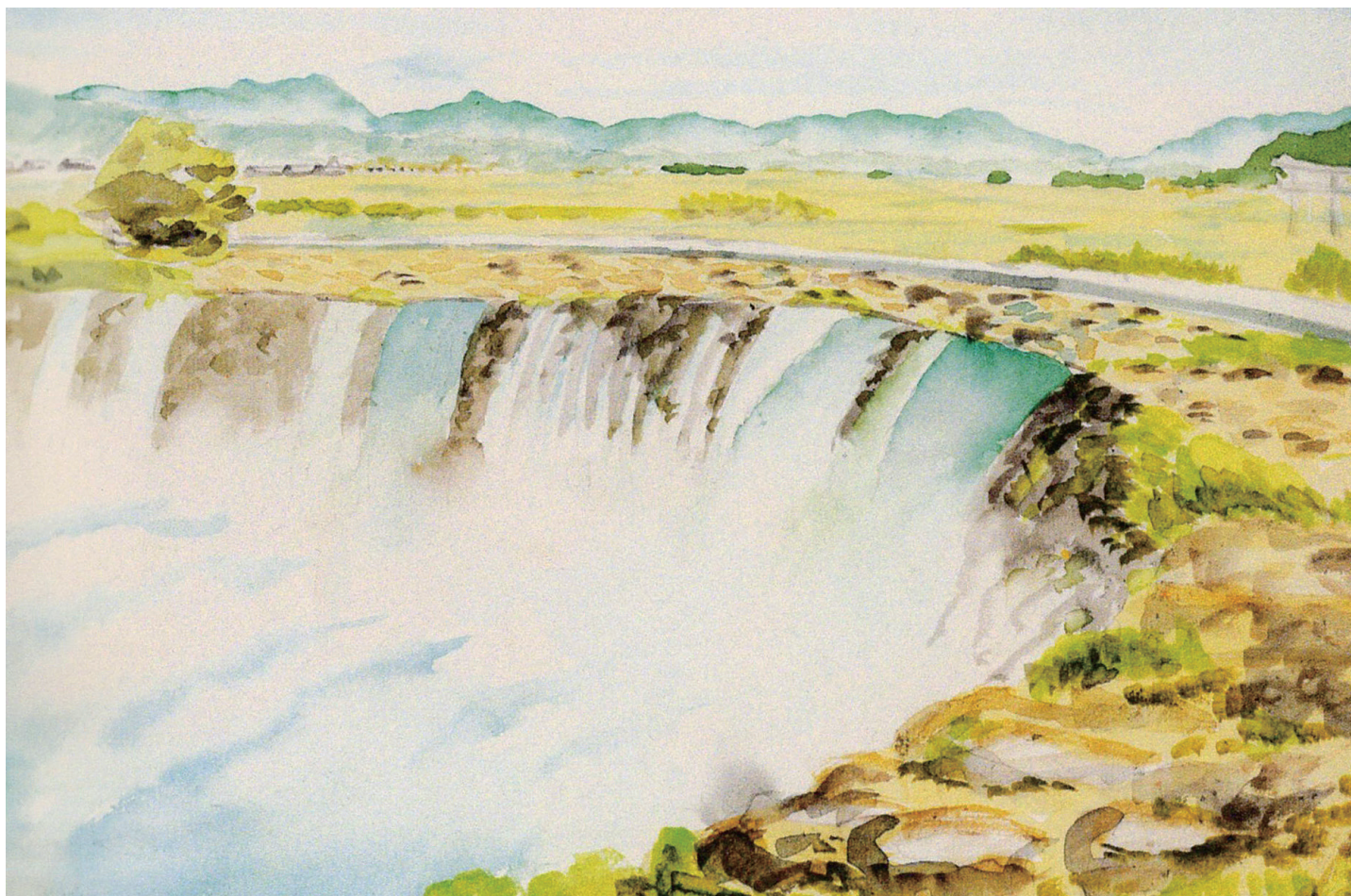
ご自由に
お持ち帰りください

かわら版

2023.8.1

August

vol. 86



原尻の滝（豊後大野市緒方町）

直耕団吉野診療所 所長 中野俊彦

コンテンツ

巻頭言

看護の質の向上と働きやすい職場を目指した10年 …… 2

小栗統括看護部長の退任にあたって …… 3

櫻～たすき～ 株式会社はざま自動車 …… 3

郷土の歴史 …… 4

インフォメーション/時事寸感 …… 4



社会医療法人帰巖会
理事長
松山 幸弘

「100年に1度」という言葉をよく聞くようになったのは何時からだっただろうか。今年、梅雨時もこの言葉を耳にする事となりました。各地で起きた大雨による甚大な被害に心が痛みます。被害にあわれた方々のご冥福をお祈りすると共に、「明日は我が身」と災害に対する備えを今一度確認しなければと改めさせられた次第です。さらにこの夏は今まで経験したことのない暑い夏を迎えています。私が子供の頃は昼間暑くても夕方には涼み朝はかなり気温が下がっていたように記憶しています。しかし今年、日中30度を越え朝でも25度を下回ることがなく、地球規模の気候変化を実感しています。

一方、このような中にあっても新型コロナウイルス感染症の猛威は衰えることはありません。政府が1日の新規感染者数を公表しなくなり流行しているの不明な印象が表裏しますが、日々診療を行う中、新型コロナウイルスに関する検査を受ける数、検査を受けた方の陽性率は明らかに増えています。印象としては、昨夏頃の水準(1日の陽性者数1,000~2,000人)に達しているように感じます。幸い、ワクチン接種が進んだこととコロナ治療薬の効果が増えつつ得られていることで重症化する方は以前に比べ少なくなっていると感じます。但し、高齢者についてはコロナ感染そのものより既存疾患の悪化や食欲不振が長く続くことにより生命が脅かされる方がおられます。厳しく制限された3年間を繰り返さないためにも今一度、個々の感染対策を行い安全な日々を過ごしていきたいでしょう。

先日、白杵病院からみえ病院へ移動の際にコンピニエンストアに立ち寄ったところ、大きな虫が飛んできて私にぶつかりました。何だろうと思おもむろに掴んでみると「昔は野山を駆けて虫を捕まえておりました、何とそれは玉虫(フタスジタマムシ)でした。生きて動いているタマムシを友達から見せてもらったのは40年以上前のことです。呼吸できるようにアイスコヒーのキャップの中に入れて持ち帰り娘に見せたところ「キレイイ！」と一言。翌朝に自宅の庭の木にリリースするとエメラルドに輝く翼を広げて遠く高く青い空に飛び立っていききました。暑い夏の朝のことでした。



看護の質の向上と働きやすい職場を目指した10年

帰巖会看護部相談役 小栗 明美

2023年4月、みえ病院看護部長に佐藤眞由美さんを迎えることができました。法人の看護部はみえ病院は佐藤看護部長、白杵病院は甲斐清美看護部長の両輪がそろい、新しい帰巖会看護部の体制が整いました。私は7月から法人の統括看護部長を退任し、看護部の相談役となりました。ようやく肩の荷を降ろすことができました。一方、正直寂しい気持ちもあります。

法人に受け入れていただいた方々に心から感謝しています。私は看護学校を卒業し、大分赤十字病院、滋賀医科大学病院、大分大学附属病院と38年間三次救急医療機関を経験した後、みえ病院に着任しました。三重は私が生まれ生活してきた場所でしたが、地域の医療情勢には疎く、高齢化や働き手不足、看護師不足といった課題が想像以上に存在していました。また、なにごとも医師の意見が一番に尊重される環境の中で、看護師は主体性をなくし、変化することへの抵抗を強く持つているように感じました。しかし時は好むと好まざるに関わらず変化していきます。看護師は専門職として、看護の本来の役割である、患者さんや家族の命と暮らしを守り、患者さんの安心と安全を第一に考え、患者さんに寄り添い、時には患者さんの代弁者となることが求められます。看護の主体性を取り戻し、チーム医療の中心的な役割を果たしていくことができるようになるためには、看護の実践能力を高め、自分たちの力で成し遂げた成果を見える化し、自信を持つことが必要です。そのために費やした10年間でした。

ことが必要です。そのために看護師の職場環境改善に取り組み、処遇の改善や外来当直制度の導入、急性期病棟の看護補助者の夜勤開始、時間外勤務の短縮などを実現してきました。幸い、幹部の方々と多職種の方々の理解と協力を頂くことができ、今日の帰巖会看護部組織を築くことができました。特にコロナパンデミックの3年間は感染予防対策や患者さんのケアなど、すべてで看護部が主体となって対応してきました。法人内で看護師の存在価値を高める機会となり、看護師の処遇改善や働き方改革への理解を得る機会にもつながりました。

当法人が2011年に「帰巖会みえ病院」として赤嶺の地に新築移転し、今年で12年目になります。私は移転後3年目、2014年4月に看護部長として着任しました。その後の10年間、帰巖会は大きな変革を遂げてきました。ケアホーム青いみちIKIおれんじ館の開設、吉野診療所やあさじ町クリニックとの統合、白杵病院の開院、みえ記念病院との統合等を経て、医療や介護事業が拡大してきました。2015年には医療法人から社会医療法人となり二次救急医療機関としての指定を受けました。救急車の受け入れも昨年度は600台を超え、心臓カテーテルの検査や治療もできるようになりました。一方でこれまで培ってきた地域に根ざしたかかりつけ病院や介護施設としての役割を広げ、在宅医療や訪問看護など地域住民の生活や医療を支え、地域包括ケアの充実に力を入れてきました。就任当初は法人の看護職員97人、看護補助者19人でしたが、現在は看護職員202人、看護補助者45人と倍増しました。法人の職員も346人から764人となりました。このような帰巖会の成長期に看護部長として職員と共に関わる事ができたことを、幸せに感じ、

現状の問題を明らかにし、目標を立て、計画し、実践、評価を繰り返し、少しずつ成果を上げていくことができました。例えば院内での褥瘡(床ずれ)の発生は10年間で1/3に減少しました。患者さんの安全を守るために行われている身体拘束も必要最小限になるように毎日カンファレンスが行われるようになりました。また患者さんに良い看護ができるためには看護師自身が生き生きと働くことができる

看護の看には人が人を思いやり、関わろうとする時の基本があり、患者の心までみるそのものです。患者の思いに心を傾け、患者さんと家族が何を望んでいるのかを考え、心の中をみる事ができる看護師になつて欲しいと思います。しかし、私の力が及ばず、まだまだ十分に達成できていない現状と課題が残されています。今後はみえ病院、白杵病院の二人の看護部長と看護部の皆さんに託し、今以上に看護の質を高め、地域の方々に頼りにされる看護部になることを期待しています。「私たちは個人を尊重し、やさしく思いやりのある看護・介護を提供します」の理念を忘れず、目の前の一人ひとりに全集中して、やさしく、思いやりのある看護を提供していただきたい、それが私の願いです。今後は相談役として、後方より見守りたいと思います。長い間、統括看護部長を支えていただきありがとうございました。

小栗統括看護部長の退任にあたって

帰巖みえ病院副看護部長 安部 幸

小栗統括看護部長が長年のご尽力の末に統括部長職を退任され、相談役に就任されることになりました。この場をかりて寄稿させていただきます。

小栗統括看護部長と私は、前任地からのお付き合いです。そのため小栗統括看護部長が、大病院、みえ病院と長い看護師のキャリアを終え退任されると聞きとても感慨深く、寂しい思いに包まれました。前任地におかれても、頭脳明晰で私たちの考えの10倍先を走っていた師長で、スタッフの信頼を集めていました。また手作りの料理などを持参してくださり温かい人柄で慕われていました。現在でも「小栗会」として小栗統括看護部長を慕う集まりがあります。私がいえ病院に就職を決めたのも尊敬していた小栗統括看護部長がいらっしゃったからです。

小栗統括部長がみえ病院看護部において果たしてこられた役割は、単なる管理職ではなくそれ以上のものがありました。常にスタッフの成長を重視し、教育・研修制度の充実に尽力し、病院全体の発展と成長を促進するために努力されてきました。看護部のトップとして全体のマネジメントを行い、病院の理念に基づいた目標を達成するために様々な資源を活用しながら、他部署の調整や統括としての役割を果たしながら経営の担い手として奔走していま

した。スタッフからは見えない部分で尽力し苦勞をしていたことを私は知っています。その成果を数値で表し改善度具合も示してくださいました。看護部が困難な状況に直面した時でも、課題解決に向けて迅速に動き、感情に流されることなく的確な判断と冷静な指導により私たちを鼓舞し、勇気づけてくださいました。その一つにまだまだ新型コロナウイルスが大分で流行する前に今後、混乱するであろう現場を見通し早期から情報収集、マニュアル作成の指示をしてくださいり、大流行しても現場が大きく混乱することなく乗り切ることができました。ホテル療養支援も小栗統括看護部長は率先して行ってくださいり頭が下がる思いでした。さらに、統括看護部長としての役割だけでなく、スタッフとのコミュニケーションを大切にし、温かい人間性でスタッフを支える姿勢を持ち続けられました。

統括看護部長職を退任されることで、看護部は大きな空白が生まれ不安と心配でいっぱいです。今後は相談役として、小栗統括看護部長の豊富な経験と知識による支援を受けながら私たちは前進していきたいと思えます。私たちは小栗統括部長の教えと指導を胸に、さらなる成長を遂げるために努力を続けます。最後になりますが、心から感謝と敬意をささげさせていただきます。

響

豊後大野編

File 8

人から人へ響で繋がっていく
株式会社はざま自動車
代表取締役 挾間 照央さん

今月は、豊後大野市三重町で車の整備・修理、販売など幅広い車両サービスを展開している「株式会社はざま自動車」代表取締役挾間照央さんにお話を伺いました。

豊後大野市役所から清川・竹田方面に直進、道路沿いに広々とした整備工場が広がり、整備士の方々の活気が伝わる会社です。近年は「日本福祉車両協会」に加入し福祉車両の購入助言や安全活動の普及に努めています。

安定からの脱却

2012年起業しました。もともとは公務員だった挾間さん。20代前半、皆にかわいがられ資格取得もできる職場だったのですが「辞めよう」と決意します。人生の先輩であり子どもの幸せを誰よりも願っている両親は戸惑い「大丈夫だから」と言うわが子を信じるしかありませんでした。



好きなことを生かして

帰郷後は整備士の資格を活かし車の仕事に就きます。細かい注文や難関な修理依頼に加えクレーム対応など苦しい思

積み重ねますが、顧客満足にひたすら集中して仕事に打ち込んだ年月でした。

独立とこれから

独立をめざしたのは、かゆいところに手が届くサービスを提供したいから。一から育ててくれた職場に感謝の気持ちを忘れず今日も顧客に向き合います。事故直後の心細い時、安心を届けに直行します。安全を保障した整備の徹底に自信があります。社員一同、顧客に最適な技術を届け満足してもらった時、やりがいを感じると挾間代表。そして、これからは、顧客はもちろん社員の幸福度を高めていきたいと熱を込めます。「起業してよかったですか?」と伺うと「本当、大変です。」と笑顔。若い経営者のこれからはまだまだ続きます。



会社情報 ~お気軽にお立ち寄りください~
〒879-7141
大分県豊後大野市三重町秋葉1004番地3
電話：0974-22-6800
FAX：0974-28-2075
営業時間：8：00～18：00 定休日：日曜日・祝日
ロータスクラブ加盟店。お車に関するプロフェッショナルなご提案をさせていただきます。(九州運輸局長指定工場完備) 中古車展示もあります。

大野町の歴史

(門上神社)

県道直北(なおきた)線宮の前橋(桑原と北園の境の橋)を渡ると北園集落の入り口、左手直北平野は神韻縹渺(しんいんひょうぼう)と青海原の如くつづく。右手倉敷の丘上鎮守の森に門上神社がある。

祭神は、天津彰根の尊を祀る。(当社を通称稻荷社と称するも理由不明)ご神体、鎌倉時代末期の作で極彩色の木像、尊顔うるわしき衣冠束帯の座像、切妻式神明造り間口入りの館に鎮座しています。

当社の起源は、遠く鎌倉時代で大友興廃記によると、建久七年征夷大将軍源頼朝は、齋院の次官中原親能の娘との間に生まれた一法師丸、後の大友能直を豊前豊後の守護職鎮西奉行に命じた(大友能直の出自は諸説ある)。

同年三月部武将古庄四郎重吉(大友能直の実弟)は先勢として鎌倉勢を引具(ひきぐ)し海路別府浜脇に上陸前進の後、大野の莊王の原、市万田、直北の戦に突入、この時大野大



野の大宮司大野九郎泰基は神角寺の峻嶮を本拠として入国を妨げるも利あらず、同年四月十五日泰基神角寺城に自刃し、二豊鎮定したので大友の重臣鳥屋城を築き、鳥屋城門上に城主三河守鑑重は、直入郡阿志野村(現朝地町中熊)亀ヶ岳山上より祭神を勧請、応永年間(一三九四年)一四二八年)北園表平後藤一氏宅上の丘上に勧請更に倉敷の現位置に鎮座す。旧藩時代は藩主より年間祭祀料米一斗三升五合を給せられ、旧四月二十二日大祭を行ったが、現在は四月の日曜日に行い、供奉として御岳流獅子舞を集落氏子の青壮年者が奉仕する。

尚同社向原御幸所西南二十mの地に円塚古墳があり、前記大友合戦に戦死した人の千人塚との説あるも詳かではない。

インフォメーション

information

外来健康教室のご案内

みえ病院では、外来待合室にて健康教室を定期的で開催しています。テーマはできるだけ患者さんやご家族が身近に感じて頂けるものを取り上げ、分かりやすく、家庭でも実践できる内容を心がけています。



気温が上がる時期には、熱中症対策として、効果的な水分摂取方法等を実際に販売されている飲料水や経口補水液を用いて説明を行いました。

病院での待ち時間を皆さんの健康に役立ててもらえればと思います。

開催日: 奇数月の最終火曜日
(今年度下半期の日程は計画表をご参照ください)

開催場所: 外来待合室

2023年度健康教室計画表

9月26日	腰痛・肩こり体操	理学療法士
11月28日	インフルエンザについて	外来看護師
1月23日	歯科	歯科職員
3月26日	健診より	保健師

時事寸感

九州では何故か梅雨明け宣言は出ていないが、既に真夏だ。子供達の「夏休み」も始まっている。これだけ気象条件が酷くなってくると、一概には言えないが、夏は若者には歓迎すべき季節だ。しかし、年齢を重ねるうちに、最も疎ましい季節に変化してしまつたようだ。つい数年前までは連日も「高原」以外では自殺行為にも思えるといつて、暑い屋外を避けて、冷房の効いた屋内で長く過ごしていると、手足の冷えが酷くなって、慌てて散歩に出かけたり、厚めの靴下をはいたり、何やら情けないことになる。「自律神経失調です」ね、それに更年期(老年期?)障害も「とあつさり言われてしまつ」。ともかくこの年齢になると、夏は「耐え忍ぶべき苦難の季節」である。身体的な問題だけでもない。「大気の水蒸気」等々「集中豪雨」「線状降水帯発生」「特別警報」「スーパー台風の進路予想」等々心配しなければならぬことには事欠かない。加えて南海トラフ大地震と大津波シミュレーション等々、ともかく真面目な(神経質な)年寄を怖がらせ過ぎとしか思えない。コロナも第9波だときりげなく放送していき、そして「心配することが増える」と自律神経失調を悪化させますよ」とも言つから、いじめに近いことも。

テレビの番組で古館伊知郎さんもぼやいていたが、高齢社会という割には世の中、高齢者に優しくはない。ホテルに設置しているシャワー、リンスなど文字が小さくて分からないし、コンビニの消費期限も眼鏡がないと間違える。翌日までとあるのに、帰ってからよく見ると翌日の「前日」の記載がある。と、詐欺でないかとさえ。

京大霊長類研究所が、脊髄を患っているチンパンジーは、今を生きていて今後のことで悲観したりしないと言っていたが、高齢のホモサピエンスはそうもいかない。今は未だ忍耐の季節の入り口で、気象庁の正式な梅雨明けの宣言もないのに、秋雨前線の南下を今から心待ちにしているのは困つたものである。

(帰巖会副理事長 榎本 祥文)